



2024年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年7月12日

上場会社名 株式会社ウィッツ 上場取引所 東
コード番号 4440 URL <https://www.witz-inc.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 服部 博行
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 脇田 周爾 TEL 052-220-1218
四半期報告書提出予定日 2024年7月12日 配当支払開始予定日 ー
四半期決算補足説明資料作成の有無：無
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切り捨て)

1. 2024年8月期第3四半期の連結業績（2023年9月1日～2024年5月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年8月期第3四半期	2,438	27.8	209	1.3	264	13.8	165	20.8
2023年8月期第3四半期	1,908	8.9	207	△0.9	232	1.0	136	△3.2

(注) 包括利益 2024年8月期第3四半期 169百万円 (22.9%) 2023年8月期第3四半期 138百万円 (△4.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年8月期第3四半期	40.52	40.49
2023年8月期第3四半期	33.17	33.13

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年8月期第3四半期	3,426	2,428	69.6
2023年8月期	2,923	2,311	78.1

(参考) 自己資本 2024年8月期第3四半期 2,384百万円 2023年8月期 2,283百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年8月期	—	0.00	—	8.00	8.00
2024年8月期	—	0.00	—	—	—
2024年8月期（予想）	—	—	—	13.00	13.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 2024年8月期の連結業績予想（2023年9月1日～2024年8月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,400	35.9	210	12.2	270	20.1	170	27.4	41.70

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料6ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

（注）詳細は、添付資料6ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計上の見積りの変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年8月期3Q	4,176,000株	2023年8月期	4,176,000株
② 期末自己株式数	2024年8月期3Q	127,464株	2023年8月期	92,464株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年8月期3Q	4,076,412株	2023年8月期3Q	4,122,040株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	5
第3四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(会計上の見積りの変更)	6
(セグメント情報)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、感染症による影響も弱まり、経済活動の正常化やインバウンドの回復、所得・雇用環境の改善などにより持ち直しの動きが見られました。一方で、ウクライナ・中東地域をめぐる情勢や米中関係の地政学的リスク、主要各国での金融引き締めによる金利上昇等により、資源・エネルギー価格の高騰や円安基調の為替変動、物価上昇などの影響が見られ、引き続き先行きには十分に注意する必要があります。

当社グループを取り巻く環境においては、引き続き開発依頼は高い需要を維持しております。産業分野では自動車や産業機器製造業向けの売上が大きく伸びております。技術分野ではシミュレータ・仮想空間技術の売上が落ち込んだものの、主力であります組込みソフトウェアをはじめ、セキュリティ及びセーフティの技術分野が好調に推移しました。さらに、第2四半期連結会計期間において株式会社イーガー（以下、イーガー社という。）を、当第3四半期連結会計期間においてテスコ株式会社（以下、テスコ社という。）を新たに連結子会社とした影響もあり、売上高は前年同期比増収となりました。

営業利益においては、売上高が前年同期比で大幅に増収となったものの、増収に向けて外部リソース活用割合を増加させている他、給与水準の引き上げ、設立や株式取得による子会社の増加、新規事業の推進、事業の拡大、営業活動の強化などに向けた人員の増強や拠点の整備、コロナ関連の制限緩和による出張経費の増加、人材確保に向けた採用関連コストの増加等により売上総利益率の低下と販管費が増加した結果、前年同期比で微増となりました。なお、テスコ社においては、事業の特性上9月及び3月付近に売上が集中し利益貢献する傾向にあり、当第3四半期連結会計期間に取り込まれたテスコ社の財務数値は4月及び5月の業績になるため、粗利額に比して販管費が多く、連結売上高の増加には貢献しておりますが、営業利益に対しては減少の影響となっております。

経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益においては、Go-Tech事業（成長型中小企業等研究開発支援事業）に係る補助金収入及び助成金収入等が減少したものの保険解約返戻金が増加した結果、前年同期比増益となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高2,438,400千円（前年同期比27.8%増）、営業利益209,916千円（同1.3%増）、経常利益264,478千円（同13.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益165,156千円（同20.8%増）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

なお、当第3四半期連結累計期間と前年同期の一方若しくは両方がマイナスの金額である場合は、前年同期比増減率の記載に代えて、前年同期額を記載しております。また、「センシング事業」は、当第3四半期連結会計期間より新たに報告セグメントとして追加したため、前年同期額、増減額及び前年同期比（%）は記載しておりません。

1. ソフトウェア開発事業

当セグメントにおいては、自動車・産業製品向けの制御ソフトウェアの受託、自動車関連のシミュレーション及びモデルベース開発技術の提案・開発・提供、近年の電子機器装置の安全性を担保するために必要なコンサルティング・安全性分析支援などを行っております。なお、連結子会社である株式会社スクデット・ソフトウェア及び当第2四半期連結会計期間に株式取得し、新たに連結子会社としたイーガー社は当セグメントに含めております。

経営成績の状況といたしましては、シミュレータ・仮想空間の技術分野の売上が落ち込んだものの、組込みソフトウェアの技術分野で自動車及び産業機器向けの売上が好調に推移し、売上高は前年同期比増収となりました。

一方で、一部の人材リソースをサービスデザイン事業に異動させるとともに、増収に向けて外部リソースの活用割合を増加させている他、給与水準の引き上げなどにより粗利率の低下があり、営業利益は減益となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間において、売上高は2,082,134千円（前年同期比14.4%増）、セグメント利益（営業利益）は540,457千円（同4.5%減）となりました。

2. サービスデザイン事業

当セグメントにおいては、組込みシステム開発を通じて獲得した中核技術のノウハウを積極活用した新たな商品及びサービスの提供などを行っております。なお、連結子会社である株式会社イマジナリー及び第1四半期連結会計期間に新たに設立した子会社である株式会社クリスタライトは当セグメントに含めております。

経営成績の状況といたしましては、事業の開始から間もなく、また、サービス事業創出のための投資を行っている段階ではありますが、製造業DXであるデジタルツインなどの提供や自律製品の安全性に関する支援サービスな

どにより、シミュレータ・仮想空間やセキュリティ及びセーフティの技術分野で自動車産業や産業機器製造業向けの売上が増加し、売上高及び営業利益は前年同期比増収増益となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間において、売上高は245,124千円(前年同期比438.4%増)、セグメント利益(営業利益)は57,803千円(前年同期は841千円のセグメント損失)となりました。

3. センシング事業

当セグメントにおいては、X線透過・CT装置の製造・販売・保守などを行っております。なお、当第3四半期連結会計期間に株式取得し、新たに連結子会社としたテスコ社は当セグメントに含めております。

経営成績の状況といたしましては、事業の特性上9月及び3月付近に売上が集中し利益貢献する傾向にあり、当第3四半期連結会計期間に取り込まれたテスコ社の財務数値は4月及び5月の業績になるため、粗利額に比して販管費が多く、連結売上高の増加には貢献しておりますが、営業利益に対しては減少の影響となっております。

この結果、当第3四半期連結累計期間において、売上高は79,378千円、セグメント損失(営業損失)は13,328千円となりました。

4. その他

当セグメントにおいては、株式会社アトリエ、株式会社ヴィッツ沖縄が含まれております。

経営成績の状況としましては、組込みソフトウェア、セキュリティ及びセーフティの技術分野で自動車産業や産業機器製造業向けの売上が好調に推移したため、売上高及び営業利益は前年同期比増収増益となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間において、売上高は222,187千円(前年同期比43.9%増)、セグメント利益(営業利益)は39,067千円(同63.6%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、2,359,771千円(前期末比4.6%増)となりました。主な内訳は、現金及び預金1,782,628千円(同7.1%減)、受取手形、売掛金及び契約資産325,794千円(同81.4%増)、仕掛品135,456千円(同33.4%増)であります。

固定資産は、1,066,483千円(同60.0%増)となりました。主な内訳は、投資有価証券299,012千円(同48.3%増)、のれん232,101千円(同167.8%増)、保険積立金121,864千円(同23.2%減)、有形固定資産56,998千円(同35.4%増)であります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における総資産は、3,426,255千円(同17.2%増)となりました。

(負債)

流動負債は、710,365千円(前期末比102.4%増)となりました。主な内訳は、賞与引当金111,743千円(同15.9%減)、買掛金91,776千円(同104.4%増)、未払法人税等66,695千円(同113.0%増)であります。

固定負債は、287,868千円(同10.5%増)となりました。主な内訳は、退職給付に係る負債196,255千円(同18.6%増)、長期未払金87,855千円(同4.0%減)であります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、998,233千円(同63.3%増)となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、2,428,021千円(前期末比5.0%増)となりました。主な内訳は、資本金612,524千円(前期末同額)、資本剰余金547,013千円(前期末比0.0%減)、利益剰余金1,343,521千円(同10.8%増)であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年8月期の連結業績予想及び配当予想につきましては、本日付で公表いたしました「2024年8月期の連結業績予想及び配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」をご覧ください。

なお、当該連結業績予想及び配当予想の数値につきましては、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,918,611	1,782,628
受取手形、売掛金及び契約資産	179,612	325,794
仕掛品	101,518	135,456
原材料及び貯蔵品	—	24,666
商品及び製品	—	443
その他	56,988	90,781
流動資産合計	2,256,730	2,359,771
固定資産		
有形固定資産	42,098	56,998
無形固定資産		
のれん	86,658	232,101
その他	13,309	66,685
無形固定資産合計	99,967	298,786
投資その他の資産		
投資有価証券	201,652	299,012
保険積立金	158,781	121,864
その他	163,983	289,820
投資その他の資産合計	524,417	710,698
固定資産合計	666,483	1,066,483
資産合計	2,923,214	3,426,255
負債の部		
流動負債		
買掛金	44,897	91,776
未払法人税等	31,309	66,695
賞与引当金	132,949	111,743
資産除去債務	—	30,870
製品保証引当金	105	92
その他	141,683	409,186
流動負債合計	350,944	710,365
固定負債		
退職給付に係る負債	165,516	196,255
役員退職慰労引当金	—	282
長期未払金	91,495	87,855
その他	3,474	3,474
固定負債合計	260,486	287,868
負債合計	611,431	998,233
純資産の部		
株主資本		
資本金	612,524	612,524
資本剰余金	547,159	547,013
利益剰余金	1,212,801	1,343,521
自己株式	△88,879	△116,370
株主資本合計	2,283,605	2,386,688
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△305	△2,137
その他の包括利益累計額合計	△305	△2,137
非支配株主持分	28,483	43,471
純資産合計	2,311,783	2,428,021
負債純資産合計	2,923,214	3,426,255

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)
売上高	1,908,148	2,438,400
売上原価	1,188,941	1,598,007
売上総利益	719,206	840,393
販売費及び一般管理費	511,958	630,476
営業利益	207,248	209,916
営業外収益		
補助金収入	18,661	13,008
助成金収入	4,026	18
保険解約返戻金	2,682	37,861
保険事務手数料	760	581
受取手数料	99	99
その他	2,087	4,626
営業外収益合計	28,317	56,195
営業外費用		
補助金返還額	2,230	—
自己株式取得費用	773	386
支払手数料	114	95
支払利息	12	1,093
為替差損	—	51
その他	—	6
営業外費用合計	3,131	1,634
経常利益	232,434	264,478
特別損失		
減損損失	36,175	—
投資有価証券評価損	325	—
固定資産除却損	—	538
特別損失合計	36,500	538
税金等調整前四半期純利益	195,933	263,940
法人税等	56,821	92,386
四半期純利益	139,112	171,554
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,388	6,397
親会社株主に帰属する四半期純利益	136,723	165,156

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)
四半期純利益	139,112	171,554
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△992	△1,832
その他の包括利益合計	△992	△1,832
四半期包括利益	138,119	169,722
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	135,731	163,324
非支配株主に係る四半期包括利益	2,388	6,397

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（会計上の見積りの変更）

（資産除去債務の計算方法に係る見積りの変更）

第2四半期連結会計期間において、当社の名古屋事業所（名古屋テクノロジーセンター）の移転計画に伴う、新たな情報の入手により、退去時に必要とされる原状回復費用及び使用見込期間に関して見積りの変更を行いました。この見積りの変更に伴い、名古屋事業所に係る原状回復費用の見積り額が、賃貸借契約に関連する敷金の額を上回ることとなり、従来の資産除去債務の負債計上に代えて、賃貸借契約に関連する敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、当期の負担に属する金額を費用に計上する方法（以下、「簡便的な取扱い」という。）による処理が認められなくなったため、当該事業所については、第2四半期連結会計期間より原則的な取扱いによる処理に変更しております。

この見積りの変更及び簡便的な取扱いから原則的な取扱いへの変更により、当第3四半期連結会計期間の四半期連結貸借対照表において、「固定資産」の「有形固定資産」は4,190千円、「投資その他の資産」の「その他」は19,453円、「流動負債」の「資産除去債務」は30,870千円、それぞれ増加しております。

なお、当該見積りの変更による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間（自 2022年9月1日 至 2023年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益認識の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他(注)	合計
	ソフトウェア 開発事業	サービス デザイン事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,820,041	45,524	1,865,566	42,582	1,908,148
内、請負契約	867,232	20,158	887,390	35,070	922,460
内、準委任契約	652,852	20,700	673,552	—	673,552
内、派遣契約	287,806	—	287,806	7,512	295,318
内、その他	12,150	4,666	16,816	—	16,816
外部顧客への売上高	1,820,041	45,524	1,865,566	42,582	1,908,148
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	111,866	111,866
計	1,820,041	45,524	1,865,566	154,448	2,020,014
セグメント利益又は損失(△)	566,052	△841	565,211	23,880	589,091

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社における研究事業の推進やソフトウェア開発の検証事業等であります。

2. 報告セグメント合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

売上高	金額
報告セグメント計	1,865,566
「その他」の区分の売上高	154,448
セグメント間取引消去	△111,866
四半期連結損益計算書の売上高	1,908,148

利益	金額
報告セグメント計	565,211
「その他」の区分の利益	23,880
全社費用(注1)	△399,214
その他の調整額(注2)	17,371
四半期連結損益計算書の営業利益	207,248

(注1) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

(注2) その他の調整額は、営業取引と営業外取引の消去時に生じる差額等であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各報告セグメントに配分していない全社資産において、基幹システムの開発計画見直しに伴い、今後使用が見込めなくなったソフトウェア仮勘定について、回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。回収可能価額の算定にあたっては、使用価値を零として減損損失を測定しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては36,175千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2023年9月1日 至 2024年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益認識の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他(注)	合計
	ソフトウェア 開発事業	サービス デザイン事業	センシング 事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	2,080,414	223,670	79,378	2,383,462	54,937	2,438,400
内、請負契約	686,866	86,028	13,474	786,369	37,542	823,911
内、準委任契約	1,090,848	122,017	—	1,212,866	2,560	1,215,426
内、派遣契約	288,011	—	—	288,011	14,835	302,846
内、その他	14,688	15,623	65,903	96,216	—	96,216
外部顧客への売上高	2,080,414	223,670	79,378	2,383,462	54,937	2,438,400
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,720	21,454	—	23,174	167,249	190,424
計	2,082,134	245,124	79,378	2,406,637	222,187	2,628,825
セグメント利益又は損失(△)	540,457	57,803	△13,328	584,933	39,067	624,000

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社における研究事業の推進やソフトウェア開発の検証事業等であります。

2. 報告セグメント合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

売上高	金額
報告セグメント計	2,406,637
「その他」の区分の売上高	222,187
セグメント間取引消去	△190,424
四半期連結損益計算書の売上高	2,438,400

利益	金額
報告セグメント計	584,933
「その他」の区分の利益	39,067
全社費用(注1)	△434,214
その他の調整額(注2)	20,130
四半期連結損益計算書の営業利益	209,916

(注1) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

(注2) その他の調整額は、営業取引と営業外取引の消去時に生じる差額等であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「ソフトウェア開発事業」セグメントにおいて、第2四半期連結会計期間にイーガー社の全株式を取得し、連結子会社としております。当該事象によるのれんの発生額は74,552千円であります。

また「センシング事業」セグメントにおいて、当第3四半期連結会計期間にテスコ社の全株式を取得し、連結子会社としております。当該事象によるのれんの発生額は83,659千円であります。

4. 報告セグメントの変更等に関する情報

当第3四半期連結会計期間にテスコ社の全株式を取得し、連結子会社としております。これに伴い、「センシング事業」セグメントを新たに報告セグメントとして追加しております。このセグメントにはテスコ社で展開するX線透過・CT装置の製造・販売・保守などを行う事業が含まれております。